関係機関が連携した旭山動物園の渋滞緩和への取り組み

●旭川市　●北海道開発局 旭川開発建設部

全国的に注目を集める旭山動物園の入園者数は近年急激に増加を続け、それに伴って周辺道路の交通渋滞も深刻化していた。この緩和対策として平成17年に各道路関係機関が連携して行った取り組みとその効果、さらに今後の課題について紹介する。

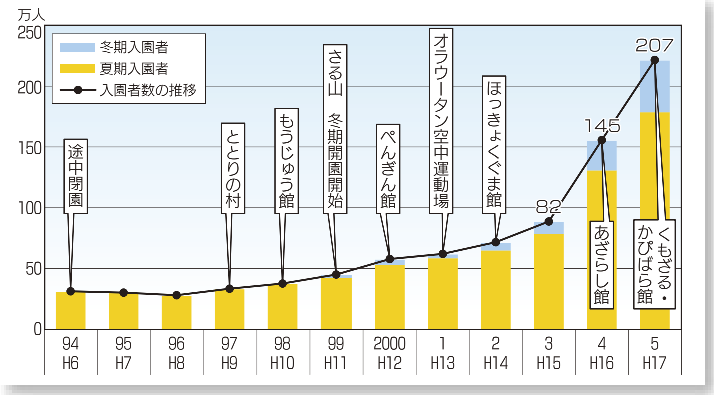
来園者の急増による交通渋滞の深刻化と関係機関連携体制の構築

世界遺産の知床と並んで道内の一番人気スポットの旭山動物園。職員のアイデアが生かされた動物展示が功を奏して、ここ10年間で入園者数は約10倍に増加、2005年度は年間入園数200万人突破と年々増加している。特に夏場は入園者が急増し、2006年８月の月間入園者数は60万を超え、月間入園者数としては３年連続日本一を記録中。そのため週末や連休時、夏休み期間を中心に動物園周辺で大きな渋滞が発生し、来園者の不満やサービス低下への懸念だけでなく、アクセスルート沿線地域の社会問題となっていた。

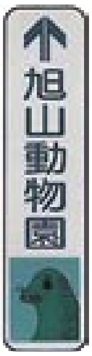
旭川市では学識者や関係機関等で構成された検討委員会を経て総合的な交通対策、「旭川都市圏総合都市交通体系マスタープラン」（略してMP）を平成16年に策定。MP策定後、旭川市と各関係機関によるMPフォローアップ委員会を設置し、動物園へのアクセス向上に向けての対策をより効果的に実施するために旭川市、旭川土木現業所、旭川開発建設部、その他関係機関が連携して施策を実施した。

現状と具体的な改善施策の実施

改善に向けての総合的な交通対策が急務であり、MPの基本方針でも動物園への交通の改善が必要とされる今回は、動物園へのアクセス向上に向けた最初の取り組みとして、平成17年GW初日（４月29日）の夏期営業開始までに以下の４項目の施策を実施した。



休日の渋滞状況



動物園案内標識

①案内標識によるアクセス交通の適切な誘導

自動車交通に関しては、どの方面からの交通も主要ルートである動物園通りに過度に集中して大きな渋滞が発生していた。しかし、渋滞していないアクセスルートが複数存在することから、旭山動物園への適切な「案内ルート」を複数設定し、併せて各道路関係機関が連携して「案内標識」を設置（80箇所以上）することにより、一部に集中する交通の分散を図る。

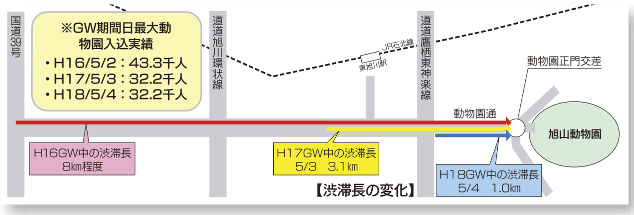
■①で設定した案内ルートと主な案内標識の位置

渋滞ルートと市街地を避け、
すいている複数のルートに誘導

統一したデザインの標識を国道、道道、市道の80箇所以上に一体整備

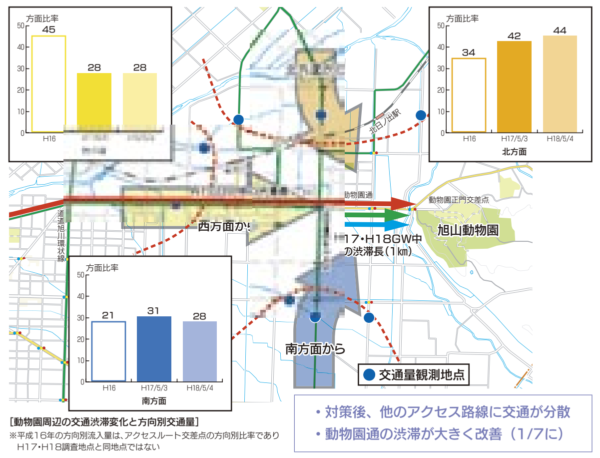
■①の効果検証　動物園周辺の渋滞状況の変化

動物園通の渋滞がH16年度GWより大幅に減少し、案内標識による交通分散が図られた。



■①の効果検証　方面別の来園割合の変化

案内標識の設置により、混雑ルートである西方面からの交通が分散。



②公共交通機関の利便性向上、
③動物園周辺の既存施設の有効活用

公共交通に関しては、路線バスは渋滞する動物園通りを運行ルートとし、本数も少ないことから、渋滞ルートを回避した新規路線開設や増便などの利便性を図った。また、動物園近郊のJR東旭川駅には、特急が止まらず、駅から動物園へのアクセス交通もなかったが、入園者が多い特定期間のみ特急の一部を臨時停車し動物園までシャトルバスを運行させた。また、動物園の近くに臨時駐車場の設置可能な施設があることから、混雑時に限って臨時駐車場として利用し、併せて、シャトルバスを運行させ、既存施設を有効活用した。

■②と③の対策　混雑時の周辺施設の有効活用とJRとの連携

臨時駐車場とシャトルバス運行経路

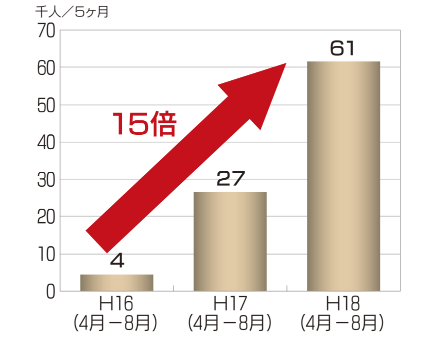
臨時駐車場の案内看板

■②の効果検証
公共交通機関の利便性向上と利用者の増加

路線バス状況

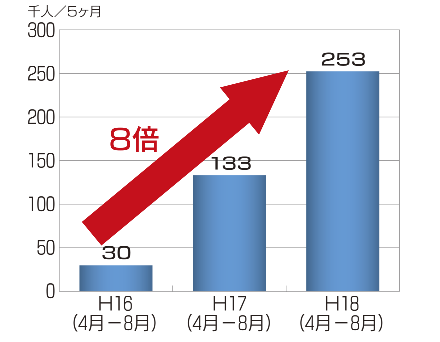
平成16年のGW期間には、最大2時間以上運行の遅れが発生したが、対策後の17年は、期間中に25分程の遅れが2～3本程度でほとんどが定時運行、18年の遅れはなくなった。

［乗継切符利用者数の変化］



JR乗継切符の利用者が急増

［大型バス利用の団体客数の変化］



団体客（大型バスの利用者）も急増

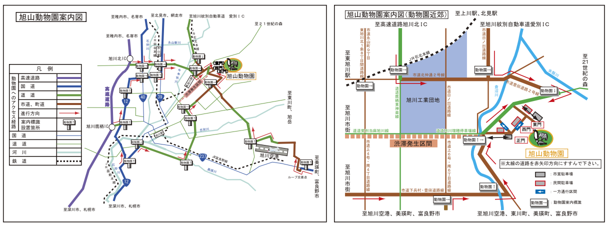
④渋滞回避を促す情報提供

さらに渋滞回避を促す情報提供を積極的に行った。GW期間中の渋滞や迂回路情報、公共交通機関利用をメディアを活用して積極的に呼びかけたり、動物園ホームページによる詳細なルート案内、高速道路サービスエリアでルート案内のチラシを配付するなど広報活動にも力を注いだ。また、インターネットアンケートを実施し、利用者ニーズの把握に努めた。

旭山動物園ホームページ：
http://www5.city.asahikawa.hokkaido.jp/asahiyamazoo/

■④の対策　HP・メディアの活用

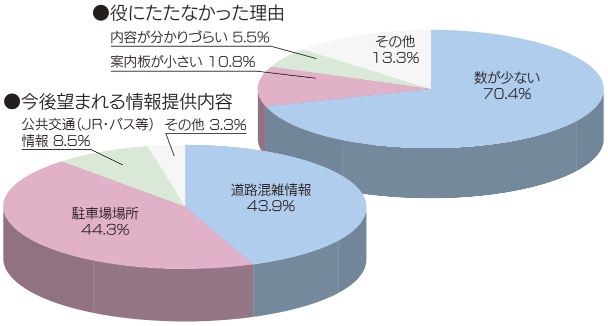
旭山動物園ホームページ［トップページ］



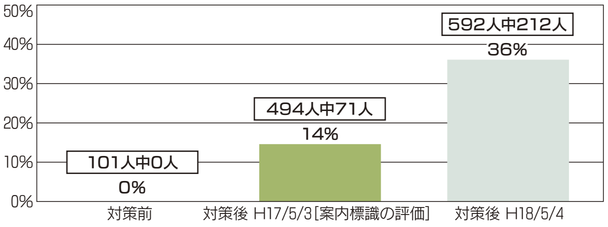
旭山動物園ホームページ［動物園案内図］

■アンケート結果

案内標識が役に立ったとする意見が確実に増加。ただし、役に立たなかった理由は、設置箇所が少ないが7割以上。



動物園利用者の案内標識が役に立った割合



まとめと今後の対応

観光交通の円滑化に向けて、関係機関が連携して行った今回の取り組みは、道路の拡幅等のハード整備に安易に頼らず、標識による誘導、公共交通利用の利便性向上、情報提供等のソフト施策を総合的に行う、誘導を柱に据えた対策である。その結果、低コストで即効性があり、利用者や地域住民、その他多くの関係者に効果をもたらした。

来園者が依然として増加している点や利用者ニーズを踏まえて、他の交通機関とのアクセス強化や迅速な情報提供の実施など、今後も総合的交通対策の継続が必要である。また、周辺観光地との連携による分散化や、総合的なキャパシティーも向上していく必要がある。